F－20 家庭経営の変動に関する生活史的研究(Ⅳ) ―福島県郡山市湖南町を例として― 家庭経営の変遷について(2)家計構造の推移

岩手大教育 ○後藤和子 福島大教育 岡村益 郡山女大家政 小林和子外3名

目的 福島県郡山市湖南町福良の旧家、K家に所蔵されている、明治・大正・昭和三代にわたる家計簿を分析し、家計構造が年度、家族周期によりどう変化したかを検討し、家庭生活の変動による家計の推移をみようとした。

方法 K家において明治41年～昭和17年まで35年間記録された家計簿、30余冊について分類集計した。具体的には、家計費と農業その他の経営費に分け、家計費は費目別に分類した。また農業経営・事業その他の経営関係の費用はそれぞれ収入と支出に分類集計し、年次的に各費目と金額の実態をあきらかにした。

しかしながら、K家の記録には自家消費分の記録がなく、食料費が明確でない。これについては家族周期より主食費を推定し、それをもとに食費金額を操作して、総額についての家計の推移を求めた。以上の結果から

1. 上層農家であるK家の特殊な形態をもつ所得の性格とその年次的な変化をみた。
2. 農家所得に占める農業所得の割合、すなわち農業依存度の推移から自給度の増減傾向をみた。
3. 家族周期による家計費の推移および消費内容の量的変化をみた。

結果 K家の農業所得はほぼ横ばい状態を示し、農外収入の増減が総体的な収入の変動を生みだしている。現金支出としての家計費は大正の後半から昭和初年にかけて大巾な増大をしめしている。